別紙２

1. 基本理念と将来像

(1) 基本理念 ―まちづくりに係る普遍的な考え方－

2004 年（平成 16 年）に高田郡 6 町の合併により、安芸高田市は誕生しました。それぞれの地域に個性的で誇らしい文化や自然が多く存在する中で、人口減少下においても、自助・互助・共助・公助の支え合いのもとに、安芸高田市を育んできました。これから先も、人口減少は続くと予測されることから、自助・互助・共助・公助の支え合いがより一層重要となり、市民一人ひとりが能動的にまちづくりに関わることにより、持続可能な地域社会を実現していくことが求められます。

2015 年（平成 27 年）に第 2 次安芸高田市総合計画を策定し、「人がつながる田園都市 安芸高田」の将来像の実現に向けて、政策を推進してきました。“人がつながる”には、生活・地域・社会を支える目に見えない絆・基盤としての社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）を築いていく想いを込めており、人口減少、超高齢化社会において重要な基盤であることから、第 3 次安芸高田市総合計画でもこの考え方を引き継いでいきます。

2024 年（令和 6 年）には、安芸高田市誕生 20 周年を記念したキャッチフレーズを一般公募し、最終選考を安芸高田市の未来を担う中高生に依頼しました。その結果、

百万一心、未来へつなぐ安芸高田市

に決定しました。

第 3 次安芸高田市総合計画でも、「皆で力を合わせれば、何事も成し得る」という意味を込めた**【百万一心、未来へつなぐ安芸高田市[注 1]】**をまちづくりに係る普遍的な考え方として、基本理念に位置付けます。

そして、以下に示す 3 つの視点から、基本理念の具体化を図ります。

【視点①誰がつないでいくのか】： 安芸高田市民と市に関わる多様な人々

【視点②誰につないでいくのか】： 20 年後の世代（子や孫たち、多様な人々）

【視点③何をつないでいくのか】： 世代を超えて共通する安芸高田市らしさ

“視点①誰がつないでいくのか”については、安芸高田市に定住する市民に加えて、安芸高田市に興味・関心・愛着を持ちながら、市に関わる多様な人々と定義します。

“視点②誰につないでいくのか”については、第 3 次安芸高田市総合計画基本構想の計画期間が 20 年であることを踏まえて、20 年後の世代（子や孫たち、市に関わる多様な人々）と定義します。

注 1：百万一心は「一日一力一心」とも読めることから、毛利元就が、一日一日を、一人ひとりが力を合わせて、心を一つに協同一致して事を行うことを教えたものとして伝わっている言葉。

“視点③何をつないでいくのか”については、社会経済情勢や価値観の変化にも影響されない、世代を超えて共通する安芸高田市らしさと定義します。

基本理念や 3 つの視点に基づく中長期の理想の状態を、安芸高田市が目指す 20 年後の将来像として位置付けます。

(2)　将来像の設計方法

―基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態－

まず、これまでの「歴史から見る安芸高田市らしさ」を整理し、歴史的な事実に基づく、この地に流れる DNA と言えるものを示します。

次に、「歴史から見る安芸高田市らしさ」を参考に、市民の意見や価値観（個々人の考え方）を踏まえて、世代を超えて共通する「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」を明確化します。その際、“安芸高田市らしさ”については、安芸高田市が目指す持続可能な地域社会の形成において、象徴的なキーワードを整理します。

また、20 年後の世代、子や孫たちに“安芸高田市らしさ”を受け継いでいくためには、時代が変わっても共通に守り続けていくべき機能と、時代が変わってもまちとしての魅力を育む機能も必要です。なお、まちの魅力とは、市外からみた場合、何度も安芸高田市に訪れたくなる要素、市内からみた場合、市民の誇りの醸成に繋がる要素と定義します。

市民の意見を踏まえて、これらの機能を明確化します。

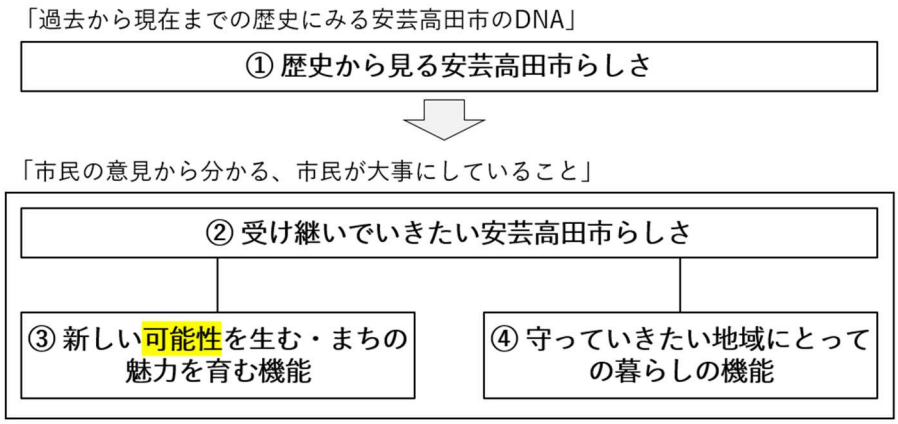

図 1　将来像の設計フロー

①　歴史から見る安芸高田市らしさ

歴史から見る安芸高田市らしさについて、以下のとおり整理します。

●歴史の転換点で多様性の受容のもと成長した

毛利元就は、当初は安芸国の国人（領主）の一人で、領地も現在の安芸高田市南部周辺の限られたエリアでしたが、安芸国の国人たちと協力することで、領地・領民を守り、着々と勢力を伸ばしました。毛利元就は、独裁ではなく、周辺の国人たちと対等な関係で盟約を結び、共同で利益を守り、秩序を維持しようとしていたことが窺えます。こうした共生のスタンスが、現在の安芸高田市に息づいています。

●中国地方の中心部として交通の要を担った

安芸高田市は中国地方の中心部に位置し、また江の川の流域として、特に戦国時代の毛利氏の登場によって交通・物流の要を担い、近世以降は雲石街道の開通により、山陽と山陰の人々と文化が行き交う場所となりました。

●様々な人・文化がとけあい、独自の文化が芽ぶいた

安芸高田市の神楽は、出雲流神楽が石見神楽を経て、江戸期にこの地域に伝えられたと言われています。また、その過程で、九州の八幡系の神楽や高千穂神楽・備中神楽、さらに中国山地一帯に古くから伝わる農民信仰などの影響を受けて、現在の形態になったと言われています。このように、外からの文化を柔軟に取り入れて発展させ、独自の文化が芽ぶきました。

前述のとおり、歴史をひも解けば、安芸高田市には、毛利元就の存在、情緒ある自然の恵みと交通の要衝として栄え、文化と人々が幾重にも重なり、独自の文化が芽ぶいてきた文脈が読み取れます。「**人々と文化が“とけあう”、新しいものが“芽ぶく”場所**」であることが、歴史から見る安芸高田市らしさと言えます。

歴史から見る安芸高田市らしさ

「人々と文化が“とけあう”、新しいものが“芽ぶく”場所」

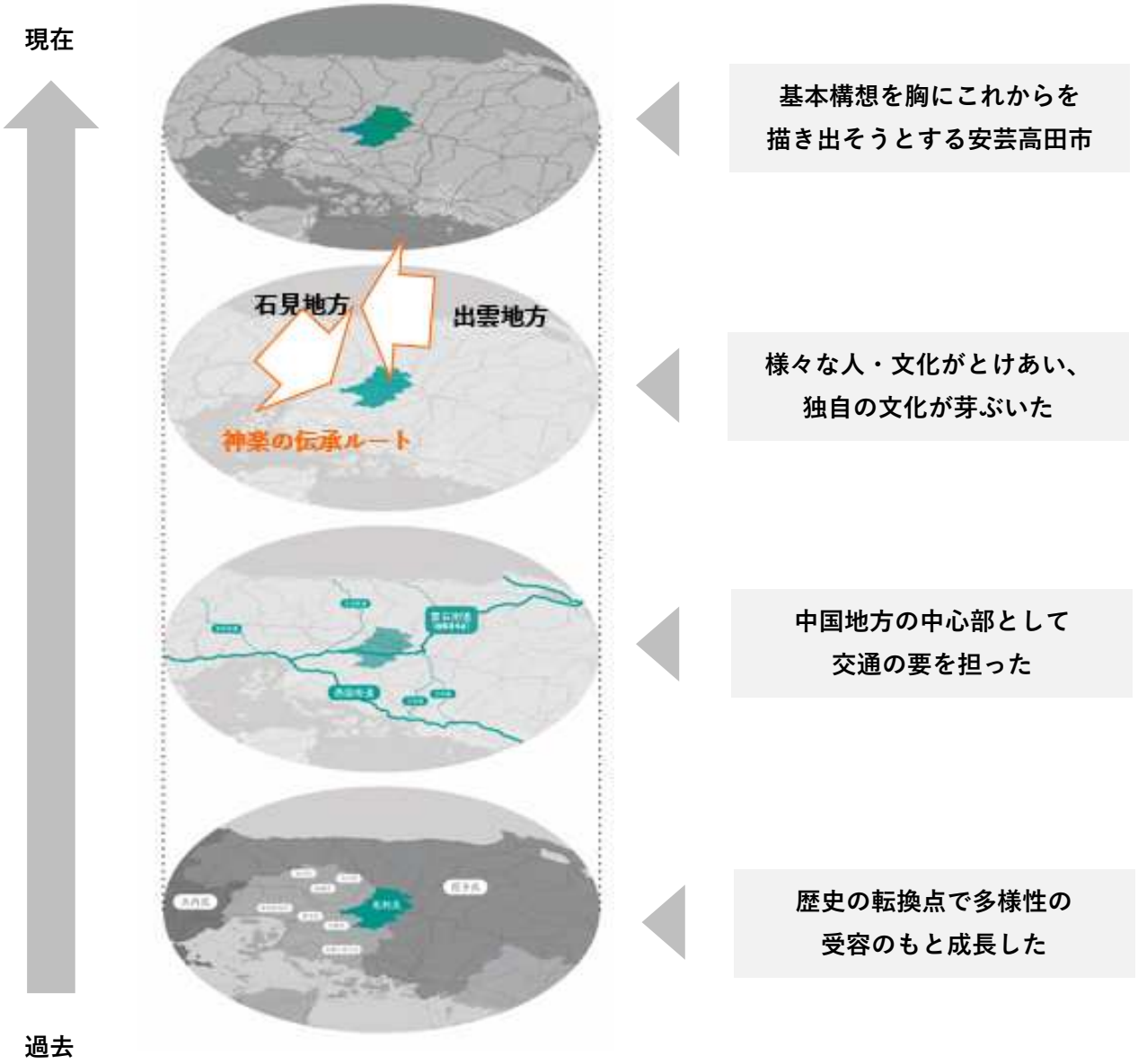

図２　歴史から見る安芸高田市らしさの変遷

②　受け継いでいきたい安芸高田市らしさ

第３次安芸高田市総合計画の策定に際し、市民の意見を反映するために地域や各団体へのヒアリングや子育て世代を対象としたワークショップ、市民アンケート調査を実施しました。また、安芸高田市の将来を担う高校生や地域で活躍する方々と共に、安芸高田市の未来を考えるシンポジウム「安芸高田市のまちの未来を若者と語る日」を開催し、パネルディスカッションでは、総合計画を策定するうえでの多くの示唆を得ました。

以上の市民意見把握の取組結果からみえる「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」は以下のとおりです。

●地域の多様性、多様な価値観・人材が調和　－「とけあう」－

市民アンケート調査結果では、次世代に受け継いでいきたい安芸高田市らしさとして、「田舎の原風景」、「都会では得られないゆとり」などが、世代に関わらず上位の回答割合を占めていました。また、中高生のアンケート調査結果では、「中心部のまちなみと郊外部の田舎風景」に「地域への愛着」との相関がみられました。

現役世代や次世代の方々が登壇し、多くの市民が傍聴されたシンポジウムで実施した、参加者アンケートの調査結果では、「安芸高田市の魅力を再認識した」の回答が多くありました。

このことから、安芸高田市の中心部のまちなみと、自然やゆとりを感じながら暮らせる田舎の側面が程よく調和している空間構成や、多様な人材・価値観が混在するところが市民にとっての「安芸高田市らしさ」であると考えられます。

●新しい社会・地域の変化に対応でき、若者を含むみんなのチャレンジを応援　－「芽ぶく」－

市民アンケート調査結果では、次世代に受け継ぎいでいきたい安芸高田市らしさとして、「新しい社会・地域の変化に対応できるまち」が、世代に関わらず上位の回答割合を占めていました。また、中高生のアンケート調査結果では、将来住みたいまちの姿として、学年が上がるほど、「若者の価値観やチャレンジを応援できるまち」と回答する割合が高い傾向にありました。

シンポジウムでは、高校生が発表した内容に対して、「熱意と自由で斬新な発想が良かった」という回答割合が高い傾向にありました。シンポジウムに登壇した高校生や地域おこし協力隊員をはじめ、現役世代などの“みんなのチャレンジ”を共有する貴重な機会が創出されました。

このことから、新しい社会・地域の変化に対応できるまちや、若者を含むみんなのチャレンジを応援し続ける土壌も、市民にとっての「安芸高田市らしさ」であると考えられます。

●自分らしく生きていける環境づくりと、相互理解のための対話　－「一つに就(な)る」－

市民アンケート調査結果では、次世代に受け継いでいきたい安芸高田市らしさとして、「自分らしく生きていける環境」が、世代に関わらず上位の回答割合を占めていました。

シンポジウムでは、世代・立場を超えた対話を通して、それぞれの価値観を共有し、他者の発表や意見に当事者意識をもって、受けとめている光景が見受けられました。また、「一人ひとりの想いを形にできるまちであって欲しい」というコメントもありました。

このことから、自分らしく生きていける環境を尊重・実現するためには、多様性の受容による市民一人ひとりの相互理解が必要であり、市民にとっての「安芸高田市らしさ」を次世代に受け継いでいくうえで、重要な考え方といえます。

以上の結果を踏まえて、「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」を以下のとおり整理しました。

とけあい、芽ぶき、一つに就(な)る。

人々が行き交い、歴史・文化や多様な価値観がまざりあうまち。
市街地と田園地帯がとけあい、暮らしやすいまちを形成し、
まちのカタチと新しいモノ・コトを織りなしてきました。
まざり、とけあうには「**肯定的関心**[注1]」をもつことが大切です。

若者を始め、多くの市民が新たにチャレンジするまち。
新たなチャレンジがまちのあちこちで芽ぶいています。
市民一人ひとりが能動的に「**行動**」することにより、芽ぶきが起こります。

お互いの生き方や価値観を尊重し、対話の中で解決や決定がおこなわれるまち。
安芸高田市がまとまり、一つに就(な)るには、「**共有**」することが必要不可欠です。

とけあい、芽ぶき、一つに就(な)る、

こうした安芸高田市らしさを 20 年後の世代に受け継ぐことを目指していきます。

「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」を受け継いでいくうえで、近年のデジタル化の加速化も踏まえ、市内外のリアルな交流だけでなく、デジタル技術も活用した交流により、多様なコミュニケーションを生み出し、新しいまちづくりにつなげていくことも目指します。

注 1：相手の意見や行動を評価せずに、そのまま受け入れようとする姿勢

③　新しい可能性を生む・まちの魅力を育む機能

市民アンケート調査結果によると、20 年後の未来、安芸高田市で機能・サービスを強化すべきと思う公共施設として、世代に関わらず、「道の駅『三矢の里あきたかた』」の回答割合が高いことが伺えます。

「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」の実現には、市に関わる多様な人々がまじりとけあい、新しいことが芽ぶく場所づくりも必要です。道の駅をゲートウェイに、各地区の魅力を活かしていく取組やデジタル技術を活用した情報発信や交流の仕組みを構築していくことが重要です。

【世代別集計】

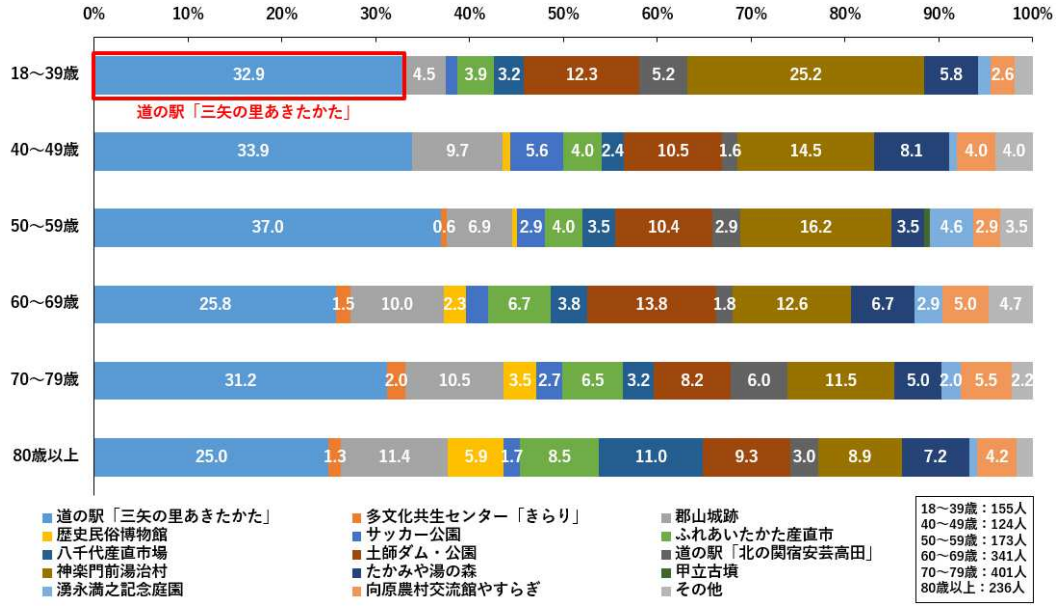

図 3　20 年後の未来、安芸高田市で機能・サービスを強化すべきと思う公共施設【第 1 位の回答】

【地区別集計】

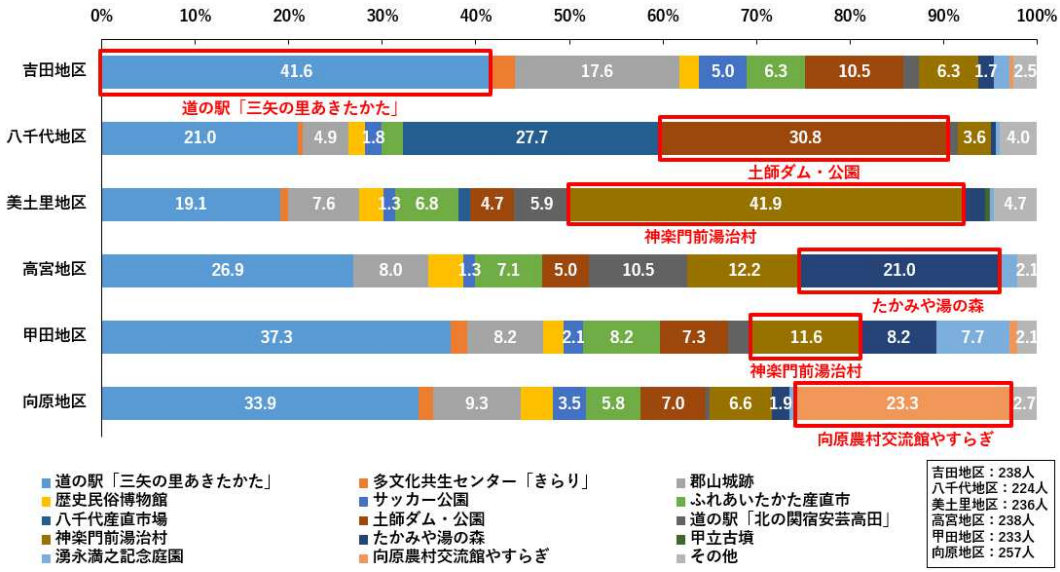

図 4　20 年後の未来、安芸高田市で機能・サービスを強化すべきと思う公共施設【第 1 位の回答】

④　守っていきたい地域にとっての暮らしの機能

市民アンケート調査結果によると、20 年後の未来、安芸高田市で残していくべきと考える生活機能として、世代に関わらず、「医療・診療施設」、「公共交通（鉄道・バス）」の回答割合が高いことが伺えます。

「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」の実現には、デジタル技術も活用しながら、生活する上で必要な機能を守ることも重要です。

【世代別集計】

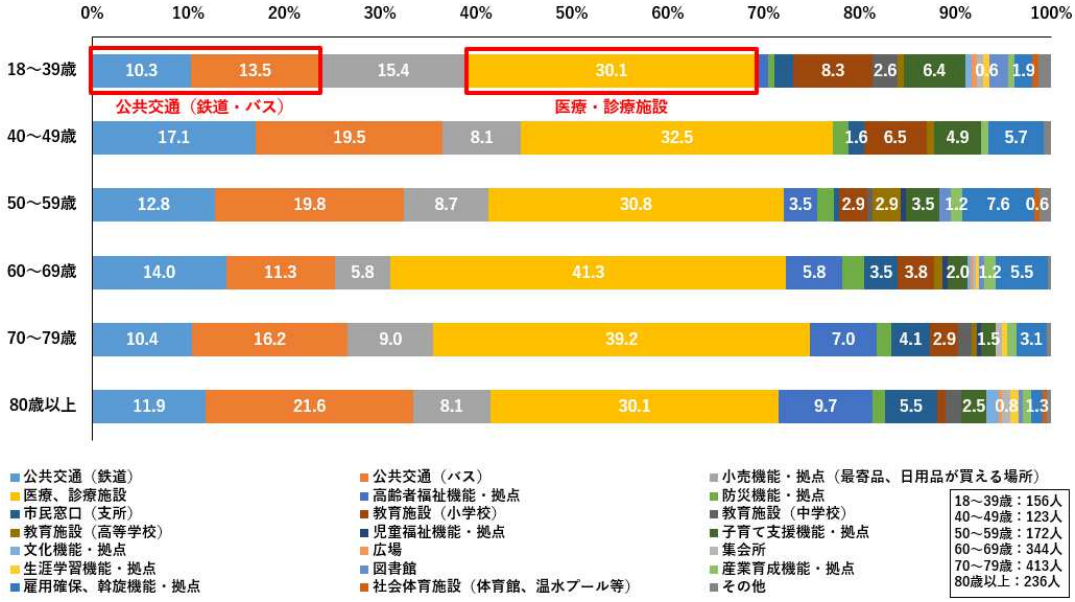

図 5　20 年後の未来、あなたが安芸高田市で残していくべきと考える生活機能【第 1 位の回答】

【地区別集計】

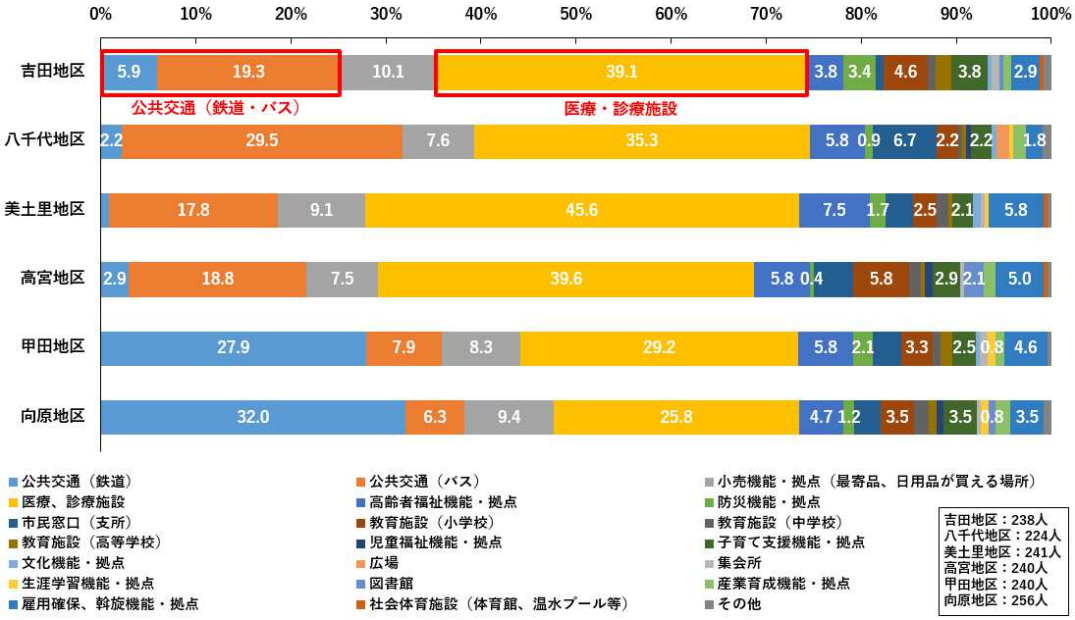

図 6　20 年後の未来、あなたが安芸高田市で残していくべきと考える生活機能【第 1 位の回答】

(3)　将来像

将来像の設計結果に基づき、安芸高田市の将来像を以下のとおり位置付けます。

●将来像　－安芸高田市らしさの伝承－

市民アンケート調査結果等より、「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」として、以下の特長を見出すことが出来ました。

・人々が行き交い、歴史・文化や多様な価値観がまざりあうまち。【とけあい】
・若者を始め、多くの市民が新たにチャレンジするまち。【芽ぶき】
・お互いの生き方や価値観を尊重し、対話の中で解決や決定がおこなわれるまち。【一つに就(な)る】

市に関わる多様な人々の価値観を**肯定的関心**にとらえ、合意形成を図り、**行動**することで次の展開が進み、それを周りの人に**共有**することで、**安芸高田市らしさを伝承**していきます。

●将来像　－新しい可能性を生む・まちの魅力を育む機能の強化－

市民アンケート調査結果より、20 年後の未来、安芸高田市では「道の駅『三矢の里あきたかた』」の機能・サービスを強化すべきと回答する市民の割合が高かったです。

道の駅を始めとして、まちの魅力を育む機能の強化を図り、**地域内外の交流を生み出し、新たな賑わいを生み出していきます。**

●将来像　－守っていきたい地域の暮らしの機能の維持・確保－

市民アンケート調査結果より、20 年後の未来、安芸高田市では「医療・診療施設」、「公共交通（鉄道・バス）」を残していくべきと回答する市民の割合が高かったです。

地域の暮らしを守っていくために、**医療・移動手段等の生活する上で必要不可欠な機能の維持・確保を目指します。**

2.　将来像の実現に向けた目標値

(1)　目標指標の設定

将来像の実現に向けて、基本理念や３つの将来像の目標指標・目標数値を設定します。

●基本理念　－百万一心、未来へつなぐ安芸高田市－　を評価する目標指標

基本理念は「まちづくりに係る普遍的な考え方」であり、目標指標も包括的な指標を定めることが重要です。

総合計画は、市が取り組む「まちづくり」の最上位に位置する計画であり、市民の幸福度を上げていくことが最重要な目標と言えます。このため、「**市民の幸福度**[注1]」を目標指標として設定します。

●将来像　－安芸高田市らしさの伝承－　を評価する目標指標

将来像「安芸高田市らしさの伝承」の実現に向けて、市民一人ひとりが能動的に地域に関わり、地域への愛着の醸成や新たなことへの挑戦・成長する機会や、ソーシャル・キャピタル（生活・地域・社会を支える目に見えない絆・基盤としての社会関係資本）の充実が重要であると言えます。また、人口減少が続く見込みの現状にあっては、リアルな交流だけでなく、デジタル技術も活用した対話や交流の仕組みを構築し、ソーシャル・キャピタルを強めることが重要です。

第２次安芸高田市総合計画では、ソーシャル・キャピタルの概念を将来像に位置付けており、人口が減少する中、ますます必要となることから、第３次安芸高田市総合計画においても目標指標の設定を通じて引き継ぎます。

このため、「**地域への愛着度**」、「**新たなことに挑戦・成長する機会**」、「**ソーシャル・キャピタル（ネットワーク・信頼・行動規範）**」を目標指標として設定します。

●将来像　－新しい可能性を生む・まちの魅力を育む機能の強化－　を評価する目標指標

将来像の「新しい可能性を生む・まちの魅力を育む機能の強化」は地域内外の新たな交流を生み出し、地域経済を強化していこうとする側面を強く持ちます。地域内だけでなく、地域内外を結ぶ公共交通の移動利便性を確保しつつ、観光客を増やします。観光客が多い地域は知名度も高くなり、関係人口[注2]（市外からの就業人口含む）・交流人口[注3]の増加も期待できます。そして、地域外から稼いだ外貨を地域内に循環させ（≒地域経済循環率）、所得の向上（≒産業の付加価値額）を図り、新たな賑わいを生み出していくことが重要です。

このため、「**観光客数**」、「**市外からの就業人口**」、「**地域経済循環率**[注4]」、「**産業の付加価値額**[注5]」を目標指標として設定します。

注１：市民の幸福度は、アンケート調査により 10 点満点（とても幸せが 10 点、とても不幸が 0 点）で把握
注２：関係人口は、移住や観光ではなく、地域と多様な関わり方をしている人のこと
注３：交流人口は、その地域に一時的に訪れる人々のこと
注４：地域経済循環率は、地域内で生み出された所得がどの程度域内に環流しているかを把握する指標
注５：産業の付加価値額は、企業の生産活動によって生み出された価値の総額を示す指標

●将来像　－守っていきたい地域にとっての暮らしの機能の維持・確保－　を評価する目標指標

将来像の「守っていきたい地域にとっての暮らしの機能の維持・確保」は医療や公共交通など、地域に住み続ける上で必要不可欠な生活機能であり、それらの存続のためには定住人口を維持していくことが肝心です。また、20 年後の世代に受け継いでいきたい安芸高田市らしさとして、「田舎の原風景」（農地や森林等）と回答する市民の方々が多く、農地を含む景観を守っていくことが重要です。

このため、「**定住人口**」、「**農業産出額**[注1]」を目標指標として設定します。

注 1：農業産出額は、1 年間の農業生産活動によって得られた農産物や加工農産物の総額を示す指標

(2)　目標値の設定

各目標指標の目標値を、表１のとおり設定します。

第３次安芸高田市総合計画の最終目標は基本理念の達成であり、市民の幸福度の向上ですが、その達成には、将来像の実現が必要不可欠です。第３次安芸高田市総合計画では、基本理念・将来像を評価するための各目標指標の目標値の達成に向けて、基本計画を推進していきます。

なお、各目標指標の目標値設定の詳細は次頁以降で整理します。

表１　目標指標の現況値・目標値

【基本理念】

区分	目標指標	現況値		目標値	
		年度	値	年度	値
百万一心、 未来へつなぐ安芸高田市	①　市民の幸福度	2024	6.5 点	2045	現況値以上

※①の現況値：『アンケート調査』

【将来像】

区分		目標指標		現況値		目標値	
				年度	値	年度	値
安芸高田市らしさの伝承		②　地域への愛着度		2024	50.4%	2045	現況値以上
		③　新たなことに挑戦・成長する機会		2024	5.1%	2045	現況値以上
		ソーシャル・キャピタル	④　ネットワーク（地域振興組織への参加率）	2024	54.9%	2045	現況値以上
			⑤　信頼（同じ集落に住む人たちを信頼）	2024	59.7%	2045	現況値以上
			⑥　行動規範（困ったときに相談できる人の存在）	2024	39.0%	2045	現況値以上
必要な機能	新しい可能性を生む・まちの魅力を育む機能の強化	⑦　地域経済循環率		2018	80.5%	2045	85.0%以上
		⑧　産業の付加価値額		2021	425 万円/人	2045	430 万円/人
		⑨　観光客数		2023	226 万人	2045	250 万人以上
		⑩　安芸高田市外からの就業人口		2020	4,018 人	2045	3,000 人以上
	守っていきたい地域にとっての暮らしの機能の維持・確保	⑪　定住人口		2024	2.4 万人	2045	1.8 万人以上
		⑫　農業産出額		2022	47 億円	2045	現況値以上

※①～⑥の現況値：安芸高田市『市民アンケート調査』（2024 年度）

※⑦～⑫の現況値：各種統計調査

① 市民の幸福度

世代別の「市民の幸福度（平均値）」の現況値は以下のとおりです。20 年後の 2045 年の目標値は、現況値以上とします。

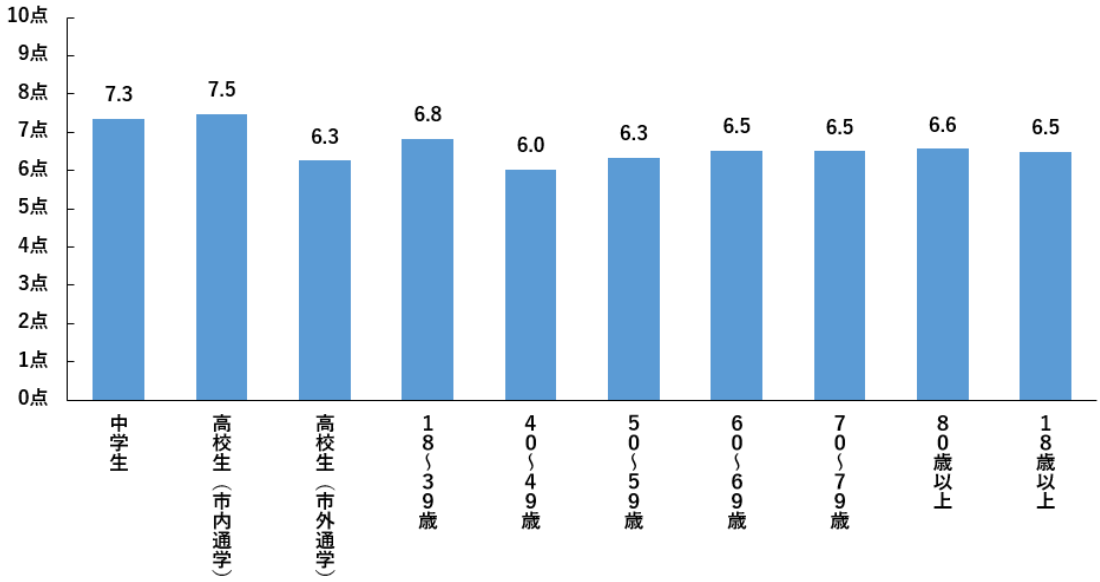

図 7　市民の幸福度（平均値）

出典：安芸高田市『市民アンケート調査』（2024 年度）

② 地域への愛着度

世代別の「地域への愛着度」の現況値は以下のとおりです。20 年後の 2045 年の目標値は、現況値以上とします。

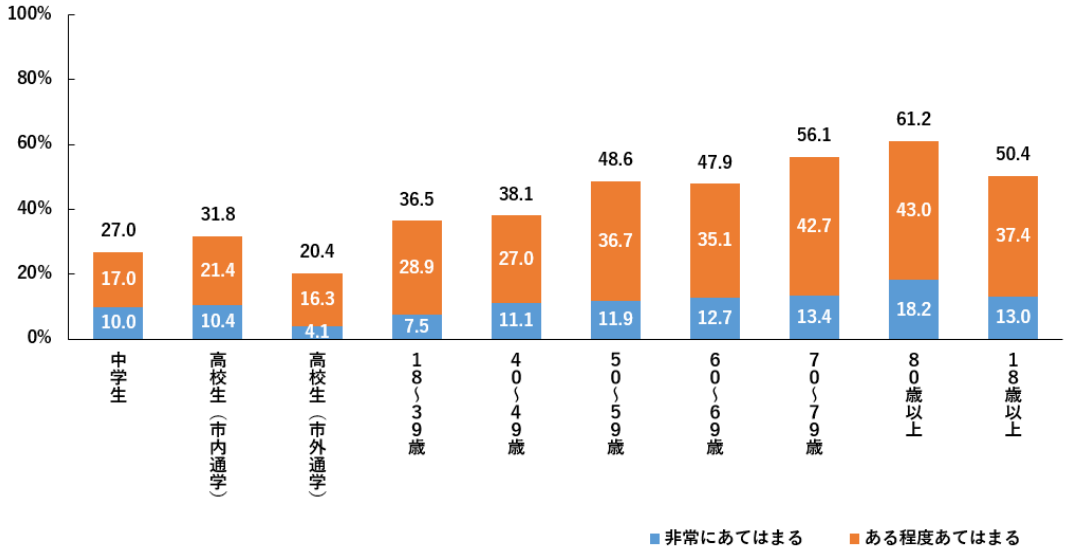

図 8　地域への愛着度（暮らしている地域にずっと住み続けたいか）

出典：安芸高田市『市民アンケート調査』（2024 年度）

③　新たなことに挑戦・成長する機会

世代が上がるごとに、減少する傾向があり、80 歳以上で増加に転じています。20 年後の 2045 年の目標値は、現況値以上とします。

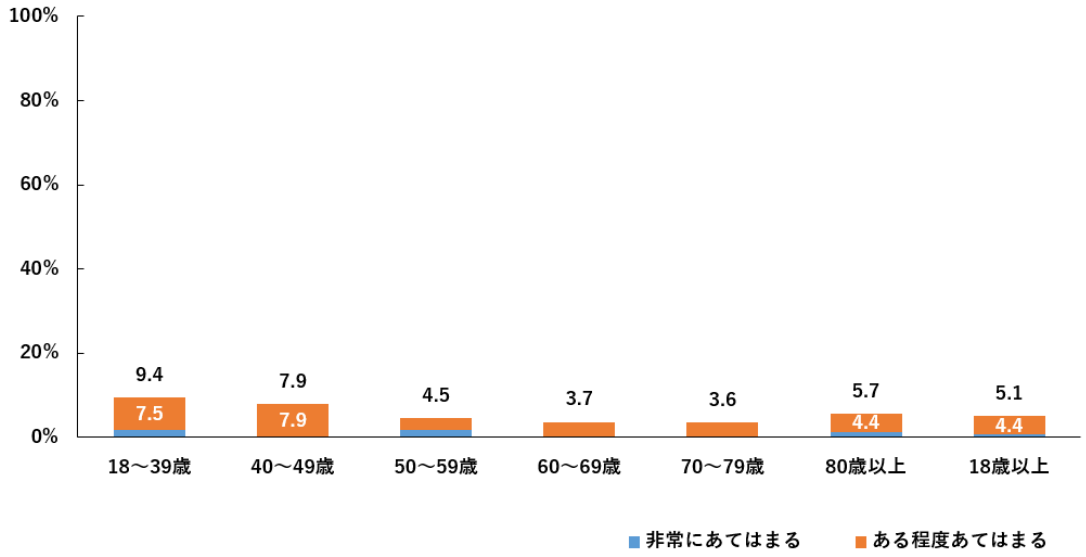

図 9　新たなことに挑戦・成長するための機会

出典：安芸高田市『市民アンケート調査』（2024 年度）

④　ソーシャル・キャピタル（ネットワーク）

世代が上がるにつれて、地域振興組織への参加率は高い傾向にあります。20 年後の 2045 年の目標値は、現況値以上とします。

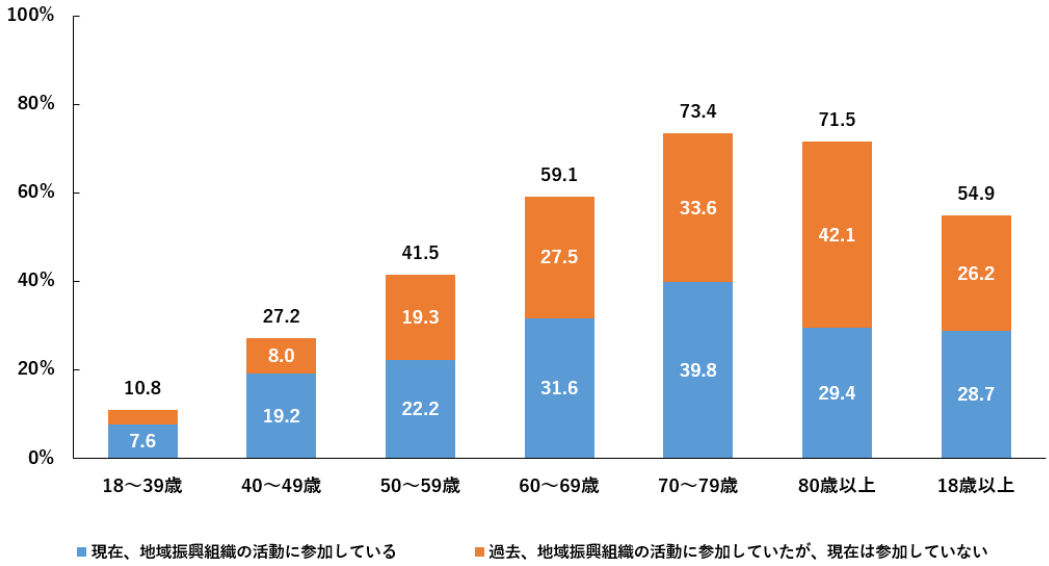

図 10　地域振興組織への参加状況

出典：安芸高田市『市民アンケート調査』（2024 年度）

⑤　ソーシャル・キャピタル（信頼）

世代別の「同じ集落に住む人たちの信頼感」に一定の傾向は見受けられませんが、80 歳以上で信頼感は最も高いことが伺えます。20 年後の 2045 年の目標値は、現況値以上とします。

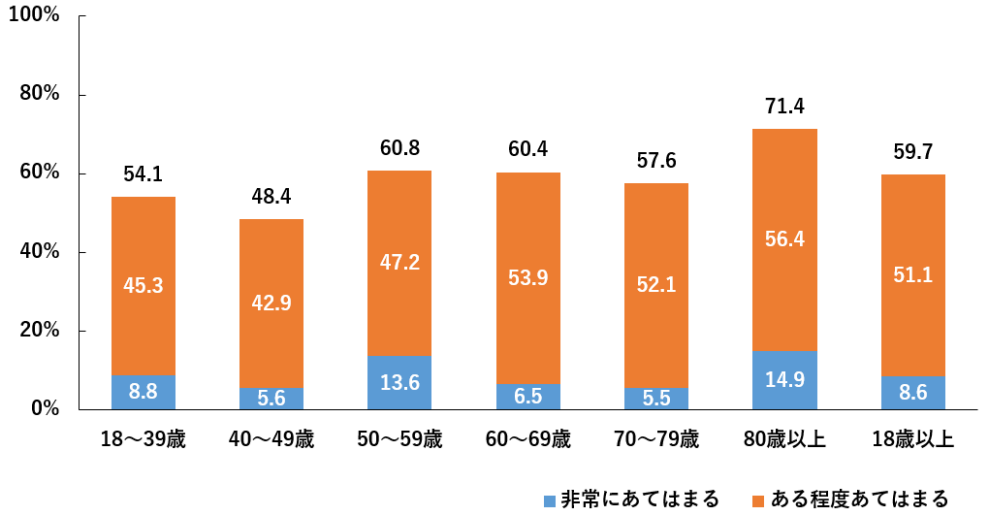

図 11　同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している

出典：安芸高田市『市民アンケート調査』（2024 年度）

⑥　ソーシャル・キャピタル（行動規範）

行動規範とは、「住民が共通の価値観を持ち、互恵性に基づいた行動を取る際の社会的な行動基準」であることから、住民同士の協力関係を構築していくという観点で目標設定をします。

世代別の「困った時に相談できる人が身近にいる」には、一定の傾向は見受けられませんが、18-39 歳で最も高いことが伺えます。20 年後の 2045 年の目標値は、現況値以上とします。

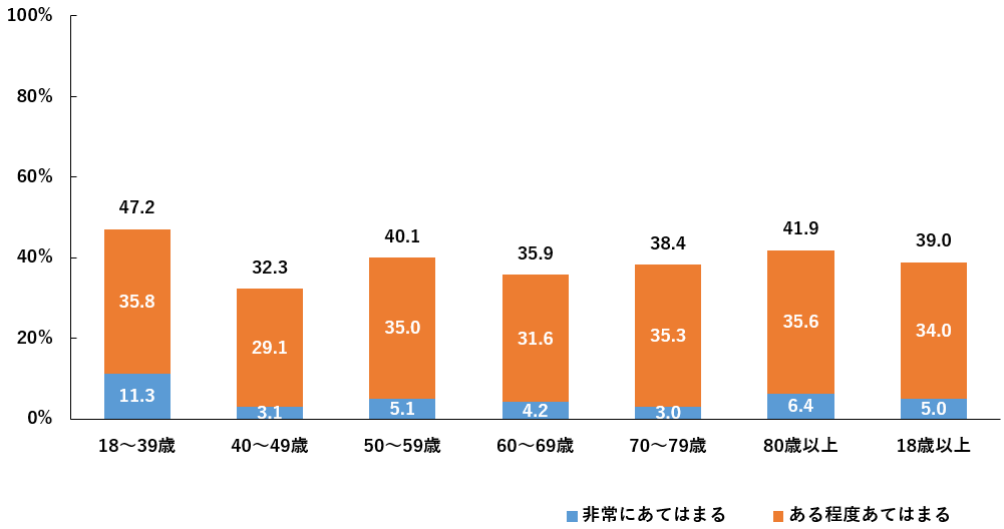

図 12　困ったときに相談できる人が身近にいる

出典：安芸高田市『市民アンケート調査』（2024 年度）

⑦　地域経済循環率

「地域経済循環率の推移」は以下のとおりです。総合戦略の目標値との整合を図り、20 年後の 2045 年は 85％以上とします。

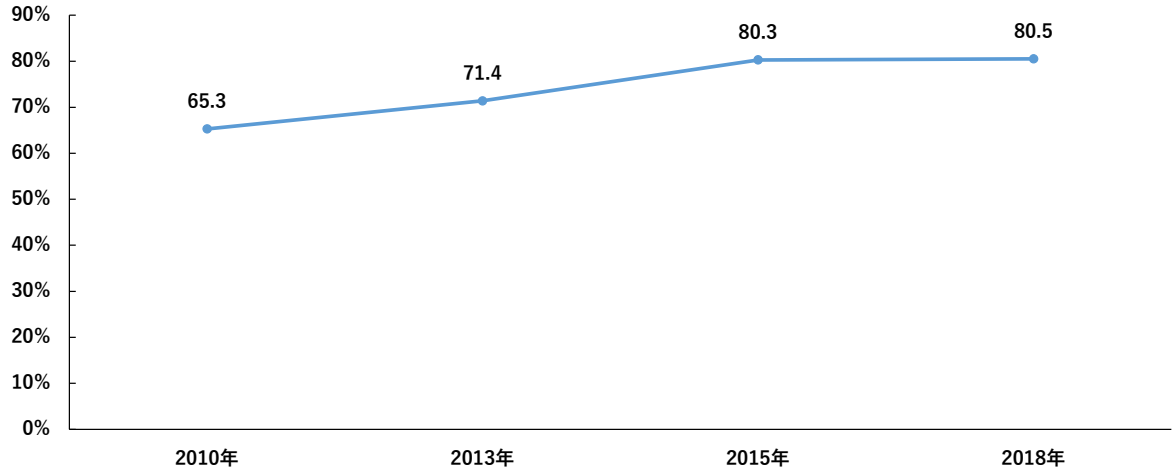

図 13　地域経済循環率の推移

出典：RESAS（地域経済分析システム）『地域経済循環マップ』

⑧　産業の付加価値額

「事業従業者一人当たり純付加価値額の推移」は以下のとおりです。目標値の設定に際しては、事業従業者一人当たり純付加価値額と地域経済循環率の相関関係[注1]に基づく回帰式（y=3.2874x＋148）を活用します。地域経済循環率の 2045 年の目標値 85％を x に代入して、産業の付加価値額の 2045 年の目標値は 427 万円（≒430 万円）とします。

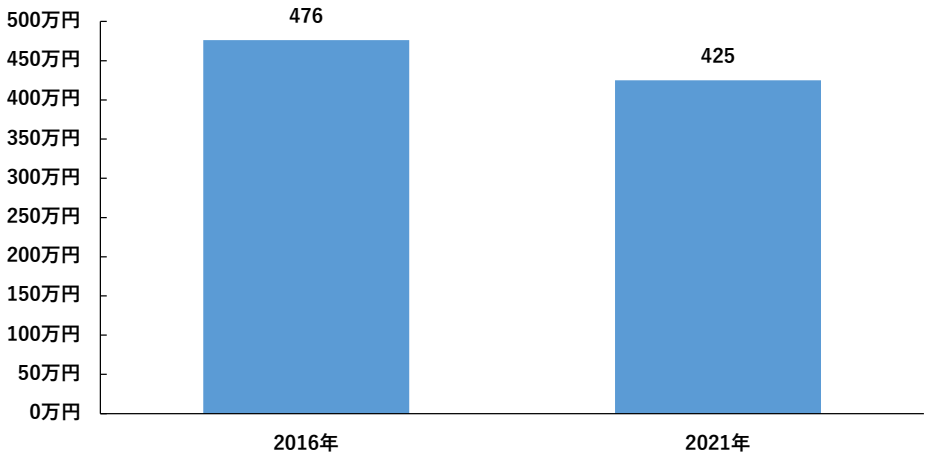

図 14　事業従業者一人当たり純付加価値額の推移

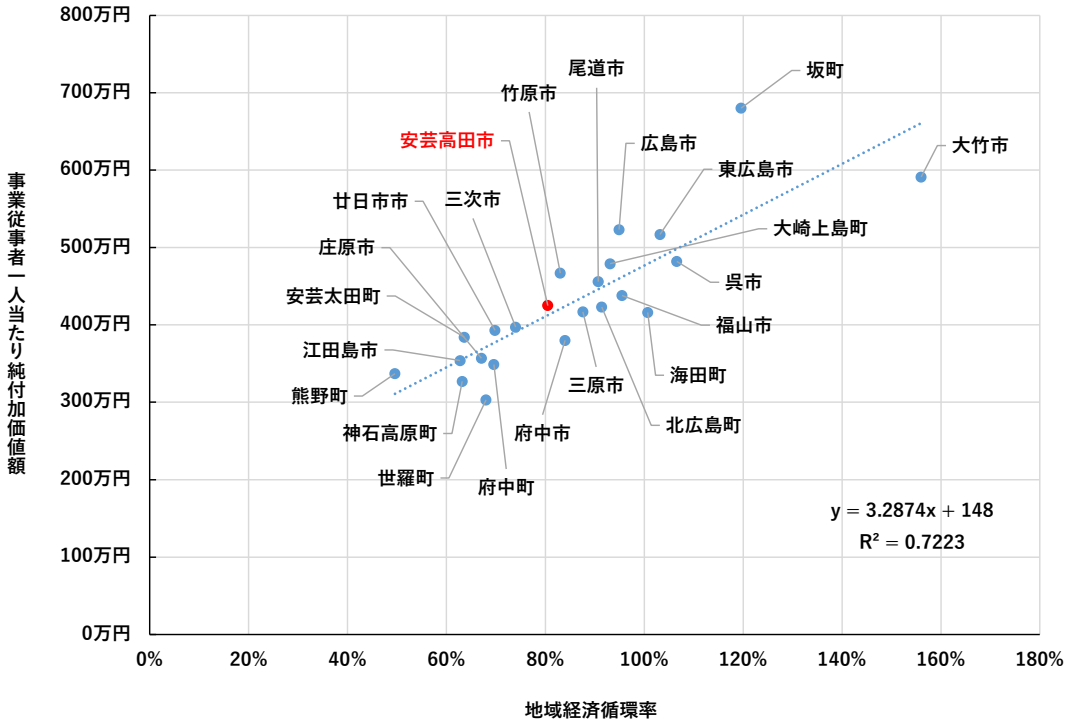

図 15　事業従業者一人当たり純付加価値額と地域経済循環率の散布図

出典：RESAS（地域経済分析システム）『地域経済循環マップ』（2018 年）、
経済産業省『経済センサス-活動調査』（2021 年）

注 1：相関関係は、2 つの事柄や値に関連性がある関係を示し、一方の値が変化すると、もう一方の値も変化する傾にあること

⑨ 観光客数

「観光客数の推移」は以下のとおりです。総合戦略の目標値との整合を図り、20 年後の 2045 年は 250 万人以上とします。

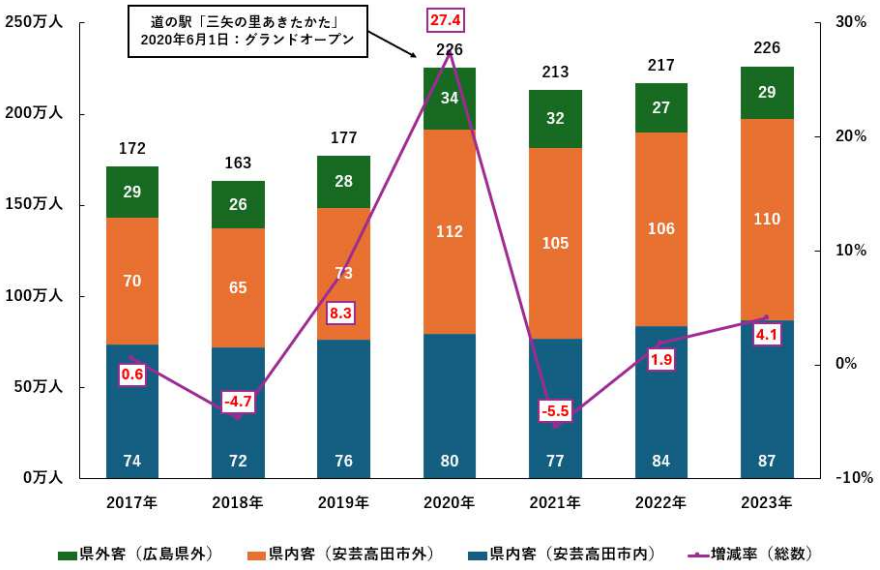

図 16　観光客数の推移

出典：一般社団法人広島県観光連盟（HIT）『広島県観光客数の動向』

⑩ 安芸高田市外からの就業人口

安芸高田市外からの就業人口は 2010 年・2015 年・2020 年で増加していますが、将来的に周辺市町の居住人口は減少するため、安芸高田市外からの就業人口も減少することが予測されます。このことから、20 年後の 2045 年の目標値は、推計値を踏まえて 3,000 人以上とします。

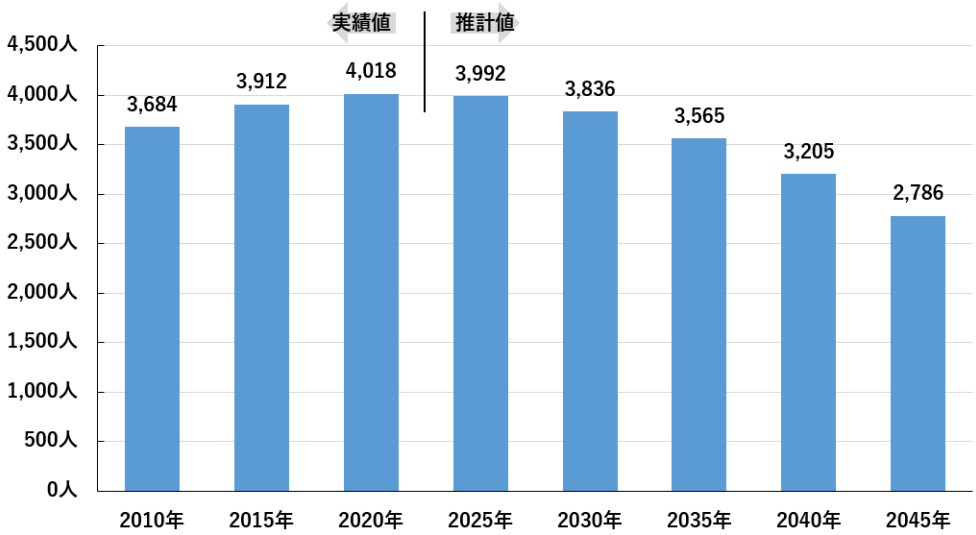

図 17　安芸高田市外からの就業人口（市町村別）の推移

出典：総務省統計局『国勢調査』2010 年-2020 年、2025 年以降は国勢調査に基づく推計値

⑪　定住人口

将来の定住人口が減少し続ければ、行政サービスの低下、生活関連サービス施設の撤退や地域コミュニティの衰退など、あらゆる問題が発生することが懸念されます。例えば、国土交通省の資料によると、定住人口が 1.75 万人を下回ると救急告示病院や飲食店等の存続確率が 50%を下回ることが指摘されています。

こうした状況を防ぐためには、安芸高田市では、政策シナリオ B（毎年、市全体で計 126 人の転入促進又は転出抑制）程度の政策強度で、2045 年には約 1.8 万人の定住人口を維持する必要があります。

なお、将来人口については、2015 年・2020 年の国勢調査データを活用して、旧 6 町別に性別・5 歳階級別のコーホート変化率[注 1]、子ども女性比[注 2]を算出して、コーホート変化率法[注 3]により推計しています。

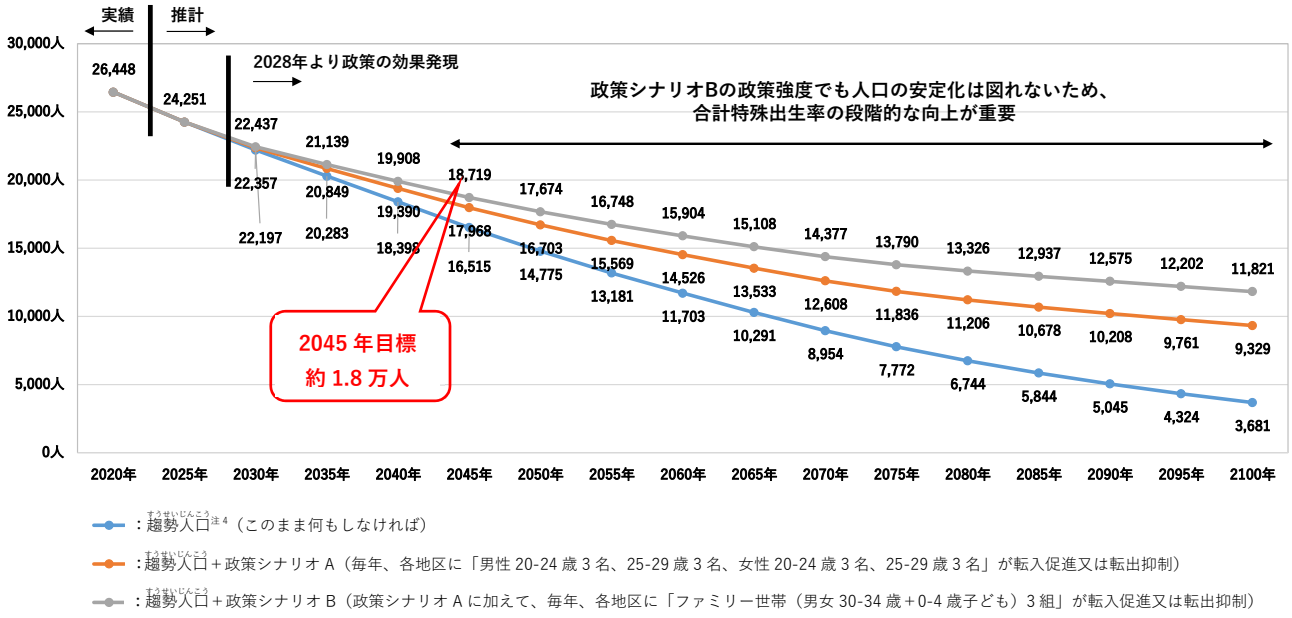

図 18　シナリオ別の人口の超長期推計の結果

出典：国勢調査（2015 年・2020 年）、国立社会保障人口問題研究所のデータを活用して、独自に推計

注 1：性別・5 歳階級別のコーホート変化率は、過去から現在までの人口変化率
注 2：子ども女性比は、0-4 歳と 20-44 歳女性人口の比
注 3：コーホート変化率法は、現在の性別・5 歳階級別人口にコーホート変化率を乗じ、将来人口を推計する手法
注 4：趨勢人口は、過去から現在に至るまでの趨勢（なりゆき）を将来に延長した人口

⑫　農業産出額

農業産出額は増加傾向にあります。20 年後の 2045 年の目標値は、現況値以上とします。なお、農地を守っていくことが目的であるため、農業産出額には畜産を含みません。

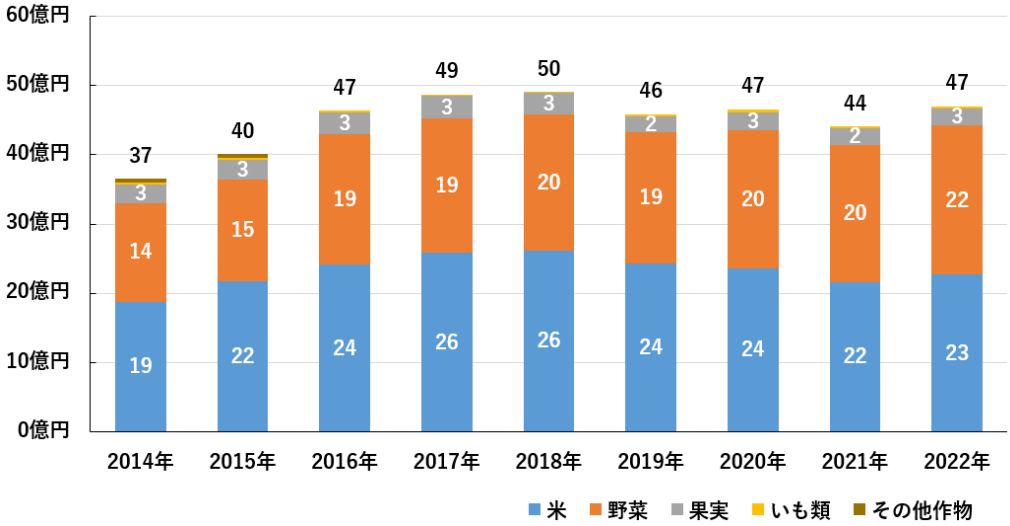

図 19　農業産出額（耕種）の推移

出典：農林水産省『市町村別農業産出額（推計）』2014 年-2022 年

3. 政策体系

第３次安芸高田市総合計画基本構想の政策体系は以下のとおりです。将来像の実現に必要な取組姿勢の提示、安芸高田市らしさを育む政策や、地域課題解決に向けた政策により、将来像の実現を図ります。

図 20　第 3 次安芸高田市総合計画基本構想の政策体系

(1)　将来像の実現に必要な３つの姿勢

市民の意見を踏まえて、市に関わる多様な人々の価値観を**肯定的関心**にとらえ、合意形成を図り、**行動**することで次の展開が進み、それを周りの人に**共有**することで、魅力的で持続可能な地域社会が形成され続ける安芸高田市を目指します。

(2)　将来像の実現に必要な５つの政策

将来像の実現に必要な政策として、以下に示す５つを掲げます。

政策１：市民と共に歩むまちづくり

市民と行政の対話を通じて、安芸高田市として推進したいまちづくりへの相互理解を深め、市の情勢に適した行財政改革を実現します。また、行政組織の効果的・機能的運用の実現のために職員の育成と組織づくりを進めます。

政策２：市民が暮らしやすいまちづくり

市民一人ひとりの尊厳と主体性を互いに認め合える文化の醸成を目指し、地域振興組織やコミュニティ活動を通じた市民の相互理解を推進します。また、それぞれの地域の課題を市民・行政がともに持つことにより、自助・互助・共助・公助の円滑な連携を土台とし、市民の生活に即した課題解決を市民・行政が一体となって取り組みます。

安芸高田市が持つ有形・無形資産を通して、市民のシビックプライドを醸成するとともに、市外に対する積極的なプロモーション活動を展開し、交流人口・関係人口の拡大を目指します。

政策３：子どもたちの学びと成長を支えるまちづくり

安芸高田市の宝である子どもたち一人ひとりに対して、その年代・その背景に配慮したきめ細かな支援を実施します。また、子どもたちに学びに対する多様な選択肢を整備することで、子どもたちの個性に合った教育を実現するとともに安芸高田市での新たな芽ぶきを促進します。

家庭、地域や学校といった子どもたちを取り巻く状況に対して、対話と相互理解を念頭においた支援を実施し、誰もが子どもたちを支えていくという意識の醸成を促進します。

政策４：いつまでも健康で安心して暮らせるまちづくり

誰もが生涯にわたって、健やかに過ごせるよう、健康づくりへの支援や意識啓発を促進するとともに誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう医療機関や団体などと連携した地域の体制

づくりを推進します。また、健康寿命延伸に向けた取組として、健康管理や予防促進を展開するとともに、積極的な社会活動への参加を呼びかけます。

乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージ[注1]における健診制度を活用し、疾病の早期発見や自らの健康管理に活かせるよう、健診の受診促進を図ります。また、必要なときに、安心して質の高い医療を受けることができるよう、地域の医療体制の充実を支援します。

政策５：産業振興で活力あるまちづくり

安芸高田市の経済を支える主要産業である農業や製造業をはじめ、林業等の活性化を推進します。また、インターネット環境を充実させることにより、ICT[注2]産業やサテライトオフィス[注3]等新たな産業の創出を図ります。

観光業においては、地域の歴史・文化などの資源を磨き上げるとともに外部へ積極的に発信することで、新たな観光需要の創出と新規雇用を生み出します。

(3) 横断的な政策手段

人口減少に伴う財政の縮小を踏まえれば、多様な主体により政策等に取り組む「公民連携の推進」、効率的な政策等の推進に必要な「デジタルの活用の推進」が必要不可欠です。また、その実現のためには、「プロモーションの推進」により、安芸高田市の魅力や価値を共有し、共感と行動変容を促すとともに、観光客・関係人口の増加や民間投資を促進していくことが重要です。

第３次安芸高田市総合計画では、こうした横断的な政策手段を推進していきます。

注１：人の一生を年齢や結婚・就職などライフイベントによって区切った、それぞれの段階のこと
注２：Information and Communication Technology（情報通信技術）の略で、情報や通信に関する技術全般のこと
注３：企業の本社や主要拠点から離れた場所に設置されたオフィスのこと

5. 計画の推進

地方自治体を取り巻く社会経済情勢は、益々厳しさを増しています。基本構想に掲げた目標を着実に推進していくため、次の基本的な姿勢に立脚し、安芸高田市らしさを育むとともに様々な地域課題に積極的に挑戦していきます。

●基本計画の策定と推進

基本構想に基づく具体的な取組を進めるうえでの指針となる「基本計画」を策定し、総合的・計画的な行政を推進します。また、昨今の予測不可能な社会経済情勢の変化にも対応できるように、毎年の進捗管理により、柔軟に基本計画を見直せる仕組みとします。

●地域との協働・共創によるまちづくりの推進

基本計画に位置付ける具体的な施策・事業をはじめとして、行政主導だけでなく、地域との協働・共創によるまちづくりを推進します。

●健全な財政運営と行財政改革の推進

基本計画の策定・推進に際しては、20 年後の世代に負担をかけることのないよう、財政健全化計画の推進に努めます。また、目標・計画の着実な実施に向け、安芸高田市行財政改革を推進します。

●行政評価による経営管理

個別の施策や事務事業については、基本構想・基本計画に位置付ける目標指標を活用した行政評価システムにより検証・改善を図ります。

●広域連携の推進と国・県等関係機関との連携強化

行政サービスの一層の専門化・高度化・厳しい財政状況の観点から、広島広域都市圏・近隣市町との連携強化により、効率的・効果的な事業推進に努めます。

総合計画の円滑な推進を図るため、国県等関係機関との連携を密にし、効率的かつ着実な事業推進に努めます。